

塩野義製薬の新型コロナ治療薬「ゾコーバ」、目標の売り上げ下回る 感染者数が大幅減少

2024年10月28日産経新聞



会見する塩野義製薬の手代木功社長=28日、大阪市中央区（株式会社産経デジタル）

塩野義製薬は28日、新型コロナウイルスの感染者数の大幅な減少により、コロナの治療薬「ゾコーバ」の売り上げが目標を下回ったことを明らかにした。ゾコーバは公費負担の終了した4月以降、3種類あるコロナ治療薬の中でシェアを拡大。ピーク時には約7割を占めるなど堅調に推移していたが、8月以降に感染者数が減少した。

塩野義が同日発表した令和6年9月中間連結決算では、新型コロナとインフルエンザの治療薬の売上高は249億円で、目標の327億円を大幅に下回った。

6年10月から7年3月までの下期の売上高目標については、今冬の流行を想定して474億円を据え置いた。

塩野義は感染症治療薬を収益の柱に位置づける。大阪市内で会見した手代木功社長は「新型コロナは感染者数が減少した一方で入院患者数は増加している。抗ウイルス薬による早期治療は重要で、処方率、シェアともに伸ばしていく」と強調した。ゾコーバは今後薬価が引き下げられるが、「現時点で混乱は生じておらず、業績への影響はほとんどないだろう」とした。

一方、塩野義はインフルエンザ治療薬「ゾフルーザ」については、投与により周囲への感染リスクが29%低減したとのデータを発表しており、さらなる利用拡大に期待している。塩野義の6年9月中間連結決算は、売上高に当たる売上収益が前年同期比7.2%減の2139億円、純利益が8.2%減の831億円だった。注意欠陥・多動性障害（ADHD）治療薬の権利移管に伴う一時金250億円が生じた反動が出た。

7年3月期の連結業績予想は上方修正し、純利益が80億円増の1710億円になるとした。抗エイズウイルス（HIV）薬のロイヤルティー収入が好調なほか、単独で販売を開始する不眠症治療薬クービビックの業績貢献を見込んでいる。（清水更沙）